

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000612
法人名	有限会社 寿幸苑
事業所名	グループホーム寿幸苑 (ユニット名グループホーム寿幸苑)
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字新田1686番地1
自己評価作成日	平成28年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎市原町2番22号 宮崎県福祉総合センター 人材研修館内
訪問調査日	平成28年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に対して家庭的な雰囲気と理念に掲げているように地域で暮らし、笑顔がいっぱい、家族の方々にも安心して戴くようサービス提供をしております。目の前が田園と言う場所で利用者様もゆったりした気持ちと折々の季節感を味わいながら暮らすことができます。食事作りが冷凍食品、出来あいのものは使用せず全部手づくりで利用者様が毎食全量摂取され皆様が健康であることを職員一同喜んでます。
運営推進委員会の委員の方々が利用者様一人々を理解され把握して戴いているので地域で暮らす、地域社会との交流を益々広げて行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園が広がり、畑作りを頑張る利用者を中心に地域との交流を図っている。特に食事には力を入れており、利用者は出されたものを残すこと無くいただいている。利用者のできることを見つけ、支えることで本人の自立支援を行っている。建物は会社の寮を改築したもので、廊下の幅は狭いが、歩行がなんとか可能な利用者にとっては、両手すりをつかんで移動できる。職員は限られた環境の中で利用者の歩行を促すなどの努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見えやすい場所に掲示し、毎月のミーティングの際、全職員で唱和し認識を共有し高めている。理念の精神の下日々ケアを実践しています。	理念は前経営事業所の理念を引き継いでいるが、その理念に則ってホーム独自の倫理綱領を作成し、日々の実践に生かせるように職員の見える所に啓示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に入会し行政の広報誌、区費、行事等近隣の方々との交流を行っている。	地区の自治会に入会し、地域の夏祭り、そば祭り、野焼きに参加し、利用者との野菜の苗の交換を行うことで交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の有権者や近隣の施設職員との交流を深め認知症の方達への理解や支援をお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者様の現況報告、支援状況、職員の状況報告し委員の皆様と質疑応答し支援に反映しています。	運営推進会議では、地域の保育園の園長や民生委員の参加もあり、意見を生かす取り組みを行っている。また施設内を見学してもらい利用者の状況把握もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の福祉課には、何時も指導指示を受けており改善していています。包括支援センター、社協民生委員、区長、班長の方々にも苑の状況、課題等を認識して協力載っています。	役場の福祉課とは連絡をとりながらホームの取り組みで迷うことは指導を受け、実践の中で課題の改善に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為を全職員理解して身体拘束をしないサービス提供をこころがけています。	玄関は常に行き来ができるように開放され、畑にも自由に行けるようにしている。職員は身体拘束に関する研修をグループホーム連絡協議会研修で受講し実践に生かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員倫理綱領の虐待防止についてミーティング時全職員で唱和をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度を利用されている方がおられるので職員は理解している。	利用者が実際に成年後見制度を利用しており、制度を実際に体験し、学ぶ機会がある。他の利用者に関しても必要に応じて日常生活自立支援事業を活用しており、必要性を理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入苑時契約書、重要事項説明書、又、改定があった場合ご家族に説明し納得して戴き、契約書、重要事項説明書、同意書に捺印をいただいています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議でご本人家族の要望等を伺い要望を反映しています。	家族の面会が少ないことで、家族の意見を聞く機会が少ない事を認識している。これからの取り組みをどのように展開していかと考えているところである。実行する意志を持っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の管理者、全職員ミーティングで改善する事、職員の意見を聞き検討しています。	管理者は月1度のミーティングで職員の意見を聞き法人事務長に報告している。解決できないことは法人代表に伝え改善を図る努力をしている。職員も自分の意見が取り入れられた事があると認識している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保障、福利厚生を充実し安心して働ける職場作りをお願いしている。職員の力不足も考えられる事がある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢などを理由に採用対象から排除はしていないが最低の有資格者を募集することはある	管理者は、職員が生き生きと勤務できる為に、研修等への参加を促している。働いている職員は年齢に幅があり採用対象から除外はしていない。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月、倫理綱領を唱和しこれに従って、人間の尊厳、人権の尊重、個人情報の保護、専門性の向上を職員一同に教育、啓発して理解を深めている	ホーム独自の倫理綱領を作成しており、利用者の人権を尊重するために毎月のミーティングで唱和することで啓発している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公的機関の研修は受けてもらう様働きかけているが上手く行っていない事が現状である。ケアワークが日進月歩進んでいる事を説明している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟しブロック研修交流会等に参加し情報交換を行いサービスの質の向上に努めています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入苑前、契約後ご本人、ご家族からアセスメントを行い要望、困っておられる課題を見つけ安心して過ごして行かれるようサービス提供を行っていく。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞きご本人に要望が反映されご家族が納得されるようしていく。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望も聞きご本人の課題を見極め、ご家族が納得され安心されるサービスを提供していきます。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の手伝いをする事で出来ないところは支援出来るところはご本人してもらい満足される支援をしていきたい。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの面会、定期受診、担当者会議イベントの呼びかけ等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類(従妹,兄弟、孫、ひ孫)友達、近所の方、幼馴染、に来院して戴く又、こちらから出かけて行くことをしている。	近所の知人宅を訪問したり、近くの商店に買い物に出かけている。また幼馴染の方に訪問してもらう等の取り組みをしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ラジオ体操、手足の運動、トランプ、行事など、利用者様同士で参加されています。参加が苦手な方は無理強いはしていません。一人勝手な方気分次第の方もおられます。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時は当苑の支援状況、ご本人の様子情報を提供している。その後の状況を家族に聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難であっても、表情、笑顔、睡眠状況、食事摂取の量などを把握し本人らしい暮らし方を願っている。	意志疎通の困難な方でも、表情やしぐさで気持ちを察して支援している。不安がありそうな利用者には側で寄り添いながら本人の意向に沿うよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の興味、好きな物、好きな事を本人、ご家族から聞き、又日常の生活の中から見つけだし本人に合った支援をして楽しく過ごして欲しいと願っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎回のバイタルチェック、表情、ADL,食事の量、排泄、定期受診等個別に現状を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い課題に対して評価をしている。課題が達成した場合は主に家族と話し合い意見を聞き職員の意見も聞きながら次の課題を作成している。	毎月モニタリングを行い、ケアプランに反映している。ケアプランは記録用紙の中にも綴り、職員が確認できるようにしている。管理者は記録の書き方や計画書の大切さを職員に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別ケアの記録をし、特変、1日の様子、主治医の指示等を職員間で共有し		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のイベント、御墓参り、兄弟を尋ねての施設訪問など柔軟な対応をしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会のふれあいとして地域のお祭り、イベント、こどもとの交流等を行っています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医と契約を結び定期的に受診を受けている方と家族が同行され家族から受診の結果を聞き主治医とはいつでも連絡をとれる体制にしています。	家族に受診をお願いしている利用者は2名で、他は往診や通院対応を職員が行っている。往診時には職員が利用者の状況を説明し医師から指示をもらっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は雇用していないが24時間対応の訪問医師への相談指導指示を受け対応している。訪問医を受けておられない利用者様は、家族から受診の結果を聞き疑問点は、直接病院、薬局に問うことにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーによる情報交換を行い主治医の指示、指導の下治療を行っています。緊急時の対応も主治医に報告し後の治療、対応も行ってもらっています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を十分に聞き、当施設でできることとできないことの説明をして家族の納得の下適切な支援をしております。	入所時に家族には説明し、重度化した時の意向の確認をしている。昨年10月には106歳の利用者の看取りを行った。24時間体制で主治医の往診があり職員も状況の把握ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故発生時は現状を把握しリスクマネジメントマニュアルに沿って管理者、家族、救急車に連絡、応急手当、初期対応のマニュアルを事務所ホール内に掲げています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年6回計画し夜勤者の緊急連絡網に従っての発信訓練、全職員の消火器の取り扱い等を実施しています。	避難訓練簿はあるが、マニュアルが無く、火災発生時の避難経路の確認は避難訓練当日に行っている。今後の避難訓練の在り方を職員で確認する事が大切である。	避難経路等を含むマニュアルの整備や近隣との合同避難訓練等の計画に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間の尊厳、尊重、個人情報の保護を遵守し、その人の性格、要望されている事を見極めその方に合った言葉がけを心掛けている。	職員は初任者研修受講している。さらに他研修を受けることでプライバシーの配慮が出来てきている。トイレ誘導等小声で本人に伝えている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方向的なサービス提供に偏らず、利用者様小見や希望が叶えられるよう自己決定の票室が出来よう話しかけ声掛けを行っています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を良く観察しアセスメントを取り本人に合ったサービス提供をしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季折々の衣類の出し入れ、その方に合った服装、お出かけ用、を心掛けて対応しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を残される方がいなく全量摂取していただいています。食事に時間が係る方もおられますが介助しなるべく自力で食べられるよう見守ってできない所は支援しています。	食事は職員が作っている。利用者はほぼ全量食べられる。器の下に滑り止めを入れたりしてできる限り自力摂取できるように支援している。利用者が他の利用者のお世話をしたり等出来ることを手伝っている。	職員は立って見守り、声かけを行っていたが、できれば座って利用者に接することで利用者のできることの確認がもっとできるようになると考えられる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	皆様全量摂取して下さいます。冷凍食品を使わず旬の野菜、苑で作っている野菜を使いバランスの取れた食事を提供しています。水分も1日の摂取量に達するよう進めています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。咀嚼が悪い時は家族に相談し訪問歯科医に診察を受けて入れ歯の点検口腔内の診察をお願いしています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えの出来る方は、トイレへの支援、便意、尿意の無い方は定期誘導と声掛けを行い失禁を回避できるようにしています。	日誌に本人の排泄時間が記入されており、排尿パターンの把握が図られ、誘導している。トイレでの排泄に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の量のチェック、個人の排泄パターンに合わせ主治医による緩下剤の服用でコントロールをしています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置により一人々の希望に添うことは今のところ難しく週/3回の入浴日には皆さん利用されています。体調によっては清拭に切り替えることもあります。	午前中の中の入浴時に入りたくない利用者については、午後からまたは夕方入浴を行い個人の希望に合わせて取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が休みたい眠りたいの要望、様子があれば居室で休んでもらっています。安眠確保のため主治医から眠剤が処方の際は服用されます。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に1週間の薬入れカレンダーシートを利用し薬剤師に入れ込んでもらっている。医療情報に綴じその都度用法をみている。定期受診後薬の変化を把握し職員に解るよう掲示しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族のこと、兄弟姉妹、昔のこと、昔の歌や話しをすると回想され笑顔が出てきます。又、個別に好きな事があり出来る限り支援したいと思っています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の員数の関係上一人々の希望を叶えるよう思っているが中々実践出来ていない。月1度位で公園、海、西都原に外出、今年には外食などにも行くよう計画をたてている。	毎月1度は外出の機会を作っている。散歩に出かける利用者もいる。日光浴をしたり、近所の畑に出かけたり、個人の希望に沿うよう努力している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	此処では家族が金銭管理をしておられます。あんしんサポートを利用している方、のお小遣いを管理して日常品の購入、ご本人が外出時に現金を持って出かけられます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が手紙を書くことは無理であるが、来たものは読んで無いようを説明することが有る。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた月の行事に合わせた装飾に気を配りながら居心地良い空間作りに勤めて居ます。	建物は会社の寮だった事もあり、共同空間は広げることが困難である。食堂の奥に畳の部屋があり、利用者は横になったり、洗濯物が置かれたりと生活感がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人々の思いがありその方の性格や習慣社会性を観察しその方に合った生活を支援し押し付けうあ強制をすることは有りません。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の要望を聞き入れながらお花や、置物、写真、好みの物を飾っています。	建物は以前会社の寮であり老朽化している。居室は利用者の状態に合わせて、ベッドや畳の部屋が用意されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要介護度の低い方は内部の事は認識しておられ自立した生活をされています。その人らしい言動や生活を職員が把握し安全に自立した生活が送れるよう工夫しています。		